

炉辺談話(426)

米山奨学生の日記

ロータリーの友 1985年2月号に掲載された、当時ロータリー米山記念奨学会理事をしておられた故多胡檜祐パストガバナーの投稿文です。非常に光栄に感じたことを覚えています。この記事が契機に1985年7月より地区の国際奉仕委員に任命されました。古いロータリーの友より私に関する記事を発見しましたので、少しだけの自慢話お許しください。

「米山奨学生として芦屋クラブにお世話になった以後の人生は、すっかり変わりました。2年間の奨学金は巨大な金額となり、私の物質面での需要を満して下さったことは、今でも感謝の気持ちで胸がいっぱいですが、一生忘れられないことは、カウンセラー田中先生が私に下さいました精神画での援助です。ロータリークラブは個人の功績を公表しないことになっているようですが、この米山奨学生報告の一角を使って、私の田中先生への感謝の気持ちを述べさせていただきます。

この2年間たいへん温かい心遣いをして下さると共に、妻や子供までの面倒をみて下さりまして、ありがとうございました。そして私はいつも思っています。もし米山奨学金がなく、また田中先生との出会いがなかったら、

もう2年前に留学をやめ国に帰ったにちがいない。ありがとう田中先生。

もうひとつ末永く私の心に思っているにちがいないことがあります。国で抗日戦争、反日感情を覚えて日本にやって来ましたが、抗日反日は遠のことであって、しかも言いすぎるような気がしました。歴史に感情を左右されると、日本そして日本人の良さがみつからないことになるでしょう。自分の目で確めたことは、日本、日本人が私たち中国、中国人の師に当たる国、人種と変わってきたとのことです。日本そして日本人が好きになりました。」(原文)

彼は神戸大学経営学部大学院博士課程で経営数学を専攻しております。田中先生は同君の奥さんを診療所(眼科)の看護婦見習として世話されていますが、また診療所の別棟を

改造して、コンピュータのソフト会社を設立し、留学生にその場を提供して、アルバイトと親睦の場として開放され、「一人でも多くの留学生が日本を好きになって帰国するように願っています。」と言っておられます。田中先生の会社では、現在留学生 20 名(米山奨学生 3 名)がアルバイトしています。

米山奨学会のカウンセラーの制度は、他に例を見ない貴重な制度であり、奨学会のまいた種が大きく成長して、両国の理解と親善ひいては世界平和に貢献する大樹になるかどうかは、カウンセラーの双肩にかかっていると思います。

これを実証されている田中先生を満腔の敬意をこめてご紹介致しました。(田中毅氏、芦屋 RC、第 268 地区、兵庫県) で現在 9 名奨学生をあずかっており、年 2~3 回指導教官、カウンセラーその他関係ロータリアンと懇談会を開いておりますが、彼らは一様に世話クラブを通じて、もすこし多くのロータリアンと家庭的な接触と指導を希望していますことを書きそえます。

2010.4.1